

釜石市立小・中学校における

学校規模の適正化・適正配置基本方針(案)地域説明会 結果概要

日 時 令和6年2月22日(金) 18時30分～19時15分

場 所 平田地区生活応援センター

参加者数 14人

事務局 教育長ほか8人

【質疑応答】

○Aさん 人数が少なくなれば仕方がないかなと思うが、例えば、平田の子どもたちが釜石地区まで通うとなると、生まれ育った地域の方との接点がなくなるのではないかと思う。なので、学校経営の中で、生まれ育った地域との結びつきが何かできるようなもので残してもらえるような、そんなことをしてってもらいたい。特に、コミュニティ・スクールで地域と一緒に子どもたちを育てる、地域で子どもたちを育てていくというような役割みたいなものがあると思うので、そういうのが奪われてしまうとちょっと寂しいものがあると思う。

もう1点は、家族の中にも課題の多いところが多い。スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの適正な配置を、家族含めて支援できるような体制をとってもらえればと思う。

○教育長 特に地域とのつながりというところは、大切にしていかなければならないと思っている。特に小学校が地域とのつながりという部分が大きいだろうというところで、当面は地域に小学校1校は残していきたいと、基本方針を掲げたところである。

来年度から、具体的な統合の計画を考えていくが、例えば、ここの学校とここの学校を統合しましょうというときにも、おそらく時間がかかるのではないかと思う。統合する学校同士の子どもたちの触れ合う機会や、お互いに馴染む機会を設けていくことが重要であると考えている。そういった部分にも配慮しながら進めていく必要があると思っているし、統合した後の子どもたちの様子も当然、心配なところもあるので、そういった部分にも目を向けていきたいと思う。

○学校教育課長 今、教育長が申しましたとおり、もし学校規模を変えた場合、子どもたちが心に秘める思いや複雑な感情などが想定される。心のケアの意味も含め、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等についても、現在各校、巡回型、配置型含めて訪問させていただいているが、その部分についても編成後も適正に配置してまいりたいと思う。市でできる部分と県に働きかける部分と両方の面から進めてまいりたい。

○Bさん 私は山田町出身で、大沢、山田、織笠、船越、田ノ浜、大浦の6地区の中学校が1つになって山田と織笠の間ぐらいに統合した経緯がある。自分はちょうど4期生で、小学校の児童数が45人くらいだったのが、中学校が統合されたことで、いろんな地域の生徒と交わることができて、結構、視野が広がったことを記憶している。地区の人たちだけだと馴れ合いの部分があったが、それが今まで知らない地域の同級生たちと交流することによって、スポーツや勉学に結構真剣になって取り組んだ。もちろん皆がそうではないが、視野が広がった、世界が広がった、そういう経験があった。視野を広げる上で、私は、統合はすごい賛成だ。

ただし、市としても、かなりの負担が増えると思う。スクールバスは、早く帰らなければならぬ子どももいるし、クラブ活動を一生懸命やる子どももいるし、そうすると各地区に2段階の時間を設定して、バスを運行しなければならない。そういった意味では市のほうに、頑張ってもらわないといけないと思う。

それと、基本方針(案)2ページの「学校規模適正化検討委員会からの提言書を踏まえて、児童生徒の望ましい教育環境を整備する」とあるが、これは委員会が児童生徒の望ましい教育環境を整備するため、一方的に委員会からの意見をまとめた上で児童に押し付けるものなのか、児童の声を聞きながら、拾いながらこれを適正化に向けて検討していくのか、その辺が理解できなくて、やっぱり子どもたちの意見も重要だと思う。その辺はいかがか。

○学校規模適正化推進室課長 今2つお話があったが、最後におっしゃられた、子どもたちの意見を反映させたらどうだろうかというご意見かと思うが、子どもたちの意見については、昨年度、小規模校出身の高校生を対象に、小規模校出身の方で、その当時と今と比べてどうだったか、何か不便があったのか、集団規模についてどう思うか、アンケートを取ったところである。

○教育長 実はこの提言書を受けるときも、教育委員会のほうでも子どもたちの声を聞くことをどうしたらいいのかを考えたところだ。例えば、小学生に聞いたときに、その根拠や判断基準を示さなければならないだろうと。子どもたち自身がそういったところを十分理解をできるだろうか。当然聞けば、気持ちの上では今の学校がいいという子どもたちの意見が多くなるだろうというところを踏まえて、在校生に聞くのではなくて卒業生に聞くほうが、より客観的に当時を振り返りながら、答えてくれるだろうというところで、高校生にアンケートをした。対象は、白山小学校、栗林小学校、唐丹小学校の子どもたちが高校に行って、当時どうだったのかという聞き方をした。そうしたところ、子どもたちは小規模校で勉強したことについては、特に不都合は感じていなかったという声が多くあった。ただし、今高校生になって小規模のほうがいいのか、ある程度規模があるほうが

いいのか聞いた部分については、聞いた子どもの数がそれほど多くはなかったが、ある程度規模があるほうで生活したほうがいいという答えが少し多かった。つまり、当時は、不都合は感じなかったが、高校生になって、おそらくある程度の集団になった中で考えた時には、ある程度の集団の中で生活したほうがよかったという声があった。

それから、最初の部分で山田町のことが出た。実は私も山田町の豊間根中学校に勤務したことがあるので、あの辺りのことはよく知っているが、小規模校のメリットもあると思う。決して、私は小規模校がだめだとかそういうことは思っていない。よりどちらのメリットを大事にしたほうがいいのかといったときに、今発言してくださったように、ある程度の中で子どもたちが切磋琢磨しながら、多様な考えに触れながらというほうが、子どもたちが社会に出た時に、そういうふうな部分がより子どもたちの環境としてはいいのではないかというところで、今回、こういう形の基本方針（案）を定めたところである。

○OBさん 学校規模のこととは関係ないが、児童虐待について、令和4年度、岩手県は1,700件ちょっと。釜石市管内で把握されている事例はあるか。それに対しての対応はどうやっているのか。

○学校教育課長 児童虐待について、主に市の子ども課と連携しながら、件数、状況については、教育委員会でも把握して対応している。

○教育長 児童虐待について、直接的な身体的なもの、ネグレクトということで子どもの育児を放棄している部分など様々な形がある。学校のほうで発見した時は、教育委員会にも報告が来るし、教育委員会では子ども課と連携しながら対応している。また、場合によっては児童相談所のほうにも連絡して、一緒に対応しているところである。市全体でも、釜石市要保護児童対策地域協議会という組織があり、その中でいろいろと問題を抱えている子どもたちや虐待も含めて、保健福祉と教育のほうと関係者が集まってお互いに情報共有しながら対応する体制をとっている。

○OBさん 虐待ゼロを目指して頑張っていたきたい。

○教育長 虐待が疑われるのではないかとすることがあれば、教育委員会のほうに情報をお寄せいただければと思う。